

## （参考資料）鉄と火星 Mars／軍神マース

日本名 英語名 ローマ神話の神様の名前

水星 Mercury メルクリウス（商業、盗賊の神） ★Merc.（水銀のレメディ）

金星 Venus ビーナス（愛と美の女神） ★Cupr.（銅のレメディ）

火星 Mars マルス（戦いの神） ★Ferr.（鉄のレメディ）

木星 Jupiter ユピテル（全知全能の神） ★Stann.（錫のレメディ）

土星 Saturn サトゥルヌス（農業の神） ★Plb.（鉛のレメディ）

天王星 Uranus ウラヌス（ギリシャ神話の天空の神） ★Uran（ウランのレメディ）

海王星 Neptune ネプチューン（海の神）

冥王星 Pluto アメリカ人が発見：ディズニーのキャラ犬の名前 ★Plut（プルトウムのレメディ）

---

マース（ラテン語：Mārs）は、ローマ神話における戦と農耕の神。日本語では「マルス」や「マーズ」と呼ばれる[1]。英語読みは「マーズ」(Mars)である。

元の名はマーウォルス（マウォルス、Māvors）であるらしく、また、マーメルス（マメルス、Māmers）とも呼ばれていた。ギリシア神話のアレースと同一視され、軍神としてグラディーウス（グラディウス、Gradivus、「進軍する者」の意）という異称でも呼ばれる。しかし、疫病神のように思われて全く良い神話のないアレースに対し、マルスは勇敢な戦士、青年の理想像として慕われ、主神並みに篤く崇拝された重要な神である。

### 神格

マルスは他のローマ神話のどの神とも違い、ローマ建国時に既にローマにいた神であった。3月の神であるのも、気候がよくなり軍隊を動かす季節と一致する。また、これが農耕の始まる季節に一致している。当時のローマ暦は、新年は農耕の始まる3月におかれた。主神と同様に扱われたために、ローマ建設者とされる初代ロームルス王の父親という伝承まで残されている。

旧来の学説では、ローマ人が農耕民族であったため、マルスも元々は農耕神（草木の精霊）で、勇敢に戦い領地を増やしたロームルス王と像が重なり、後に軍神としても祭られるようになったと考えられていた。また、元は地下神であったため、地下に眠る死者との関連づけから軍神モートになったとする説もあった。しかし現在では、インド・ヨーロッパ語族比較神話学の進歩により、マルスは本来軍神であり、三機能イデオロギーの第二機能（戦闘）を担っていたと考えられている。しかし、マルスの名前はインド・ヨーロッパ語族とは関係のないエトルリア人に崇拝された神マリスを原型としている。

マルスからは「マルクス」「マルケッルス」「マリウス」「マルティヌス」といったローマ人名が派生し、それらをヨーロッパ各語にアレンジした人名が使われている。

マルスは、天体の火星とも同一視されている。ルーヴル美術館所蔵の彫刻「ボルゲーゼのアレス（英語版）」は美術分野でデッサンによく使われる石膏像に取り上げられており、本来ならアレースであるところを「マルス」と呼ばれて親しまれている。スペイン語では火曜日を「martes」と呼ぶが、本来は「軍神マルスの日」を意味する語である。

また、マールスは、男性の武勇や闘争心を表す比喻として用いられたり、軍神の代名詞として用いられることも多い。ウェヌス（ヴィーナス）が「愛」「女性」を象徴するのに対して、マールスは「武勇」「男性」「火星」の象徴として用いられることも多い。性別記号で男性は「♂」と表記されるが、本来はマールスを意味する記号である。

### 金属と火星

鉄は男性のエネルギーを象徴し、物理的な強さや攻撃性、成長、依存、保護に関連しています。また、欲望や自信、勇気、強さ、根気、回復力といった感情を高めます。最も‘人間的’な金属とされるので、天や霊の存在には不信とされている金属です。

### 軍神マールス



### ビーナスとマールス

